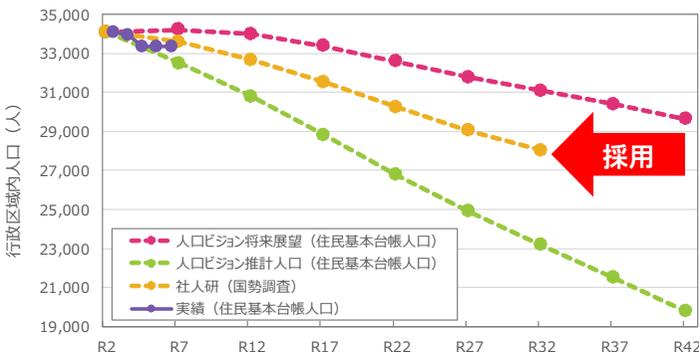


将来の人口と水量について

● 行政区域内人口

財政シミュレーションを行う上で重要な因子となります。実績との乖離が比較的小さく、かつ最新の人口動態に関する仮定値（出生率、死亡率、移動率等）を反映した国立社会保障・人口問題研究所による推計（社人研推計値）を採用しました。

社人研推計値を採用することで、財政シミュレーション上で過大または過小な見込みを避け、より現実的かつ堅実な計画の策定に役立つものと判断しました。

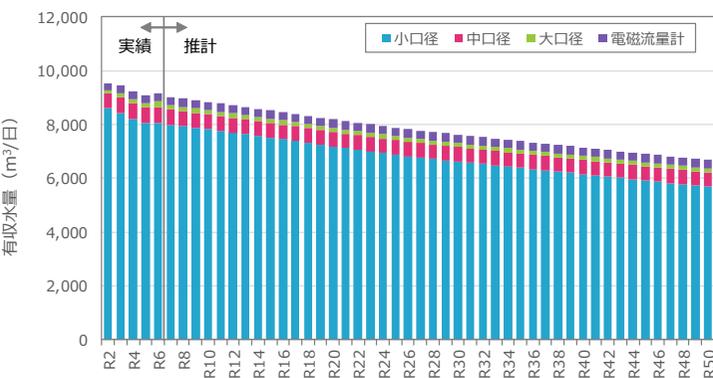


● 有収水量

過去10年間（平成27年度～令和6年度）の口径別有収水量実績を小口径（φ13~20mm）、中口径（φ25~50mm）、大口径（φ75mm~100mm）、電磁流量計に区分して推計しました。

小口径は主に生活用であることから、「生活用原単位（生活用として一人が一日当たり使用する水量）×給水人口」として算出しました。

将来の有収水量は、減少傾向で推移するものと見込まれ、令和6年度実績値と比較して令和17年度には8.5%減、令和27年度には15.3%減、令和47年度には25.7%減となります。



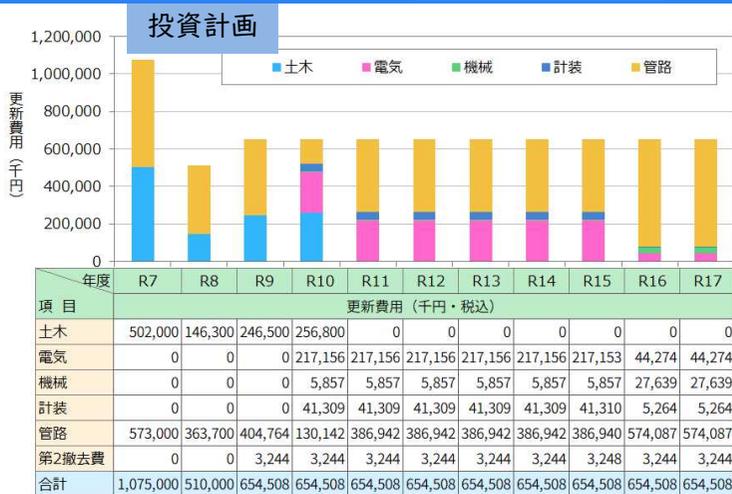
財政収支見通しについて

● 投資計画

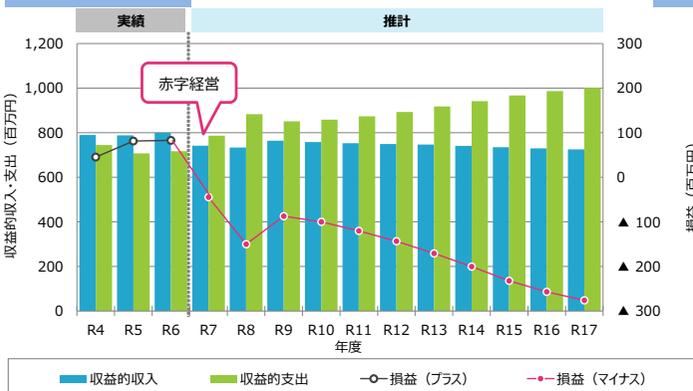
宮代町水道ビジョン2024（現行ビジョン）で行った複数パターンのシミュレーションのうち、「第2浄水場を配水場化した場合」を想定しました。

● 収支状況

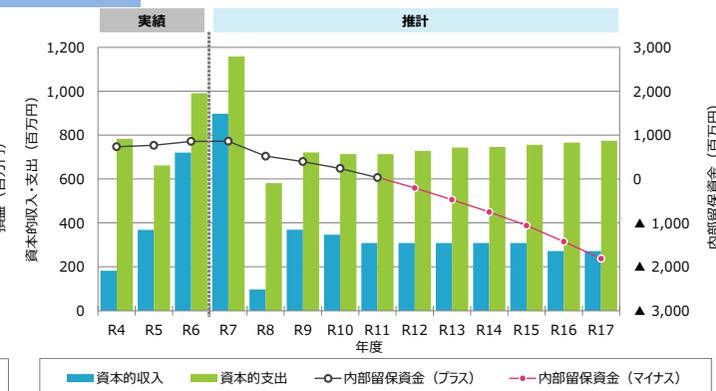
令和5~6年度決算、令和7~8年度予算を踏まえ、現行ビジョンにおける将来推計の見直し（時点修正）を行った結果、物価及び人件費が策定時点より上昇していることに加えて、当初想定していた料金改定時期を令和8年度から令和9年9月へ変更する想定で試算したことから、水道事業の経営状況を維持することが困難な状況に陥っています。



収益的収支



資本的収支



● 料金改定率について

目標値を満たすことのできる料金改定率を3年周期と5年周期で試算しました。

【料金改定率の目標値】

- ①各年度の損益が黒字
- ②「各年度の給水収益の6カ月分」に相当する資金残高を維持
- ③料金回収率が令和17年度時点で100%以上

